

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			服 装 造 形 論 I A	ファッション業界をグローバルな視点からみつめる4年間のコース。アパレル各分野の発展を担うリーダーとなる人材の育成を目的としている。1年次では、アパレル全般を理解するため総合的に学び、レディスを中心とした服飾全般の基礎知識と技術を習得する為に、縫製技術の基礎から綿素材のスカート、ブラウス、パンツ、裏付きのウール素材のスカート、ジャケット、ワンピースを製作する。 1、基礎Ⅰ・基礎Ⅱ 一般知識・縫合の基礎(部分縫い)・作図の基礎 2、体型研究 トワフル制作・試着補正・レポート 3、スカートⅠ デザイン・パターン・実物制作・レポート 4、ブラウス デザイン・パターン・実物制作・レポート 5、バザー作品 文化祭バザー作品・グループ製作 6、スカートⅡ デザイン・パターン・実物制作・レポート 7、ジャケット デザイン・パターン・実物制作・レポート 8、ワンピースドレス デザイン・パターン・実物制作・レポート 9、パンツ デザイン・パターン・実物制作・レポート 10、ドレーピング基礎 準備(目標線の入れ方)	1・前期	60	2	○			○		○		
○			服 装 造 形 デザイン I A		1・前期	60	2				○	○		○	
○			服 装 造 形 パ タ ー ン メ ー キ ン グ I A		1・前期	30	1				○	○		○	
○			服 装 造 形 ソーイング I A		1・前期	120	4				○	○		○	
○			服 装 造 形 論 I B		1・後期	60	2	○			○			○	
○			服 装 造 形 デザイン I B		1・後期	60	2				○	○		○	
○			服 装 造 形 パ タ ー ン メ ー キ ン グ I B		1・後期	30	1				○	○		○	
○			服 装 造 形 ソーイング I B		1・後期	150	5				○	○		○	
○			量 産 技 術 概 論・実習		1・通年	30	1	○		△	○			○	
○			自由研究 I A	前期・後期の学習内容をふまえて応用、発展させる。自由にテーマを決めて作品を制作し、プレゼンテーションをする。	1・前期	30	1				○	○		○	
○			自由研究 I B		1・後期	30	1				○	○		○	
○			フ ァ ッ シ ョ ン デザイン 画 I	人体のプロポーションを把握し、衣服のイメージ、バランスを読み取る力・表現する力を習得する。衣服の構造、縫製を理解しデザイン画として表現するスキルの習得。	1・通年	60	2				○	○		○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながるような描写とその楽しさを再認識する事とあわせ、基本的描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			服飾デザイン論Ⅰ	服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やシルエットのとらえ方、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾の特長を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を見ていく。20世紀以降はデザイナーの時代であり、デザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からのアプローチによって理解を深める。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレルの主素材である布地の種類と性能の基本を理解させ、応用力を養わせることを教育目標とする。布地を理解し使用するには、その構成要因となる繊維、糸、織、編、レース、染色、加工などの各々の構造、性質などを複合的に捉える必要があるため、繊維から系統的に授業を展開する。講義に演習・実験・実習を加えることで理解を促し、実践的なものとする。レベルは、高度専門士として素材を深く理解する上での礎になるよう設定している。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			服装解剖学Ⅰ	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体(骨格)に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・後期	30	1	○		△	○		○		
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応。	1・前期	30	1	○			○		○		
○			コンピュータグラフィックⅠ	ファッション産業におけるグラフィックの役割と有効性を理解し、ファッション表現のツールとしてパーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身につけると同時に、各自のデザイン能力及びプレゼンテーション能力の習得、向上を目標とする。デジタルファッション画、コラージュの製作を通してグラフィックソフトの基礎技法習得を目指す。	1・通年	60	2			○	○			○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル造 形 論 I A	・1年次に習得した基礎知識、技術をもとにアパレル造形として発展させ、トレンドを意識した商品としての価値観を加味しデザイン発想する。 また、デザイン別・素材別のパターンと縫製技術を習得する。	2 ・ 前 期	60	2	○			○		○		
○			アパレル造 形 演 習 デ ザイン I A	・個に対する服作りから不特定多数の量産への意識付けと理論の展開を図り、縫製仕様・縫製方法を理解する。 ・ドレーピングの習得を通しバランス感覚を養い、立体感とデザイン発想を各自の作品に反映させる。	2 ・ 前 期	60	2		○		○		○		
○			アパレル造 形 演 習 ド レーピング I A	1、一重ジャケット デザイン・パターン・実物製作・レポート 2、バザー作品 文化祭バザー作品 グループ製作	2 ・ 前 期	60	2		○		○		○		
○			アパレル造 形 演 習 実 技 I A	3、総裏ジャケット デザイン・パターン・実物製作・レポート 4、皮革作品 デザイン・パターン・実物製作・レポート 5、修了制作 デザイン・パターン・実物製作・レポート	2 ・ 前 期	60	2			○	○		○		
○			アパレル造 形 論 I B	6、ドレーピング 胸ぐせダーツの応用・スカート・ブラウス・ジャケット (使用ボディ…文化ボディ)	2 ・ 後 期	60	2	○			○		○		
○			アパレル造 形 演 習 デ ザイン I B		2 ・ 後 期	60	2		○		○		○		
○			アパレル造 形 演 習 ド レーピング I B		2 ・ 後 期	60	2		○		○		○		
○			アパレル造 形 演 習 実 技 I B		2 ・ 後 期	60	2			○	○		○		
○			生 産 管 理 概 論	アパレル産業の生産プロセスを、メーカー側の企画・設計業務と縫製工場側の製造業務双方から捉え、生産管理の基礎知識を習得することを目的とする。授業内容は縫製仕様書、加工指図書を通して生産情報の伝達・管理手法から、縫製工程分析表による生産計画及び生産ライン設計の仕組みと考え方、製造品質の定義と標準化への取り組み、製造原価と売価の関係について講義と各種演習を通して学習する。	2 ・ 前 期	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			自由研究ⅡA	・子供服の一般知識と原型を理解し、グループで型出し・プレゼンテーションを行う。 ・一重ジャケットとのコーディネートを考えボトムスを製作する。	2・前期	30	1			○	○		○		
○			自由研究ⅡB		2・後期	30	1			○	○		○		
○			ファッションデザイン画Ⅱ	ファッションドローイングの応用技術を得て、独自のアイデアをデザイン画で表現しポートフォリオにまとめる。デザインコンセプト(目的)を明確に意識したデザイン展開を行えることを目標とする。	2・通年	60	2			○	○			○	
○			色彩計画	1年次『服飾デザイン論』で学習した色彩の知識を基礎とし、ファッションデザイン、コーディネートにおいて計画的に行う色彩活用の技術や考え方を学習する。	2・後期	30	1	○			○		○		
○			アパレル素材論Ⅱ	アパレル素材論Ⅰの知識を基に、アパレル素材論Ⅱにおいては布地に焦点をあて、その構成要素としての繊維組成や糸、糸密度、組織、染色、加工などに着目させ、それらの種類や特性についてさらなる理解を図る。また、それらの構成要素が、布地の風合いやシルエット、製作工程にどのような影響を与えるか、素材の視点から被服設計できることを目標とする。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			アパレル染色演習Ⅰ	テキスタイル染色に関する基礎的な知識、技法を各種実験・実習を通じて得ることにより、アパレルにおける新たなデザイン発想の可能性を広げる。さらに、染色・加工の観点からテキスタイルについて理解を深めることを目標とする。	2・前期	30	1			○	○			○	
○			服装解剖学Ⅱ	1年次で学んだ服装解剖学の基礎を発展させ、筋の構造を解剖学的に理解させる。さらに動態計測(石膏計測)実習により、衣服製作に必要な皮膚の運動量・変化を把握させ、計測結果を基に機能性大の衣服設計(デザイン)を行う。	2・後期	30	1	○		△	○		○		
○			ファッションビジネス論Ⅰ	・ファッションビジネスの現状を把握する ・商品企画のプロセスと必要な情報活動についての把握をする	2・前期	30	1	○			○		○		
○			ファッションマーケティング	・マーケティングの基礎を習得する。 ・客観的な視点で市場を見る目を養う。 ・特定ターゲットに対するブランド設計のグループワークを通して、自らの役割と他者との関わり方を学ぶ。	2・後期	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			C A D パ ター ン メー キン グⅠ	基本的なアパレルCADオペレーションをマスターすることを目標とする。囲み作図をCADで作成し、基本的な線の引き方を身につける。個人の作図をスキャナで入力し、入力したデータを基にCADで基本的なパターン修正、縫い代け、パーツ情報の作成方法を身につける。	2・ 通 年	60	2			○	○		○		
○			ニ ッ ト ア パ レ ル 造 形Ⅰ	ニットの基礎知識を習得し、概論及び商品知識を理解する。基礎技術を習得し、その応用で布帛の知識を生かしたニット作品(コーディネート作品、小物を製作する)	2・ 通 年	60	2			○	○		○		
○			コ ン ピ ュ ー タ グ ラ フ ィ ッ クⅡ	ファッション産業におけるグラフィックの役割と有効性を理解し、ファッション表現のツールとしてパーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身に着けると同時に、各自のデザイン能力及びプレゼンテーション能力の習得、向上を目標とする。衣服製品図/デジタルファッション画の展開力、応用力、細部表現等、実務能力習得を目指す。ブランドロゴ及びブランディングツール製作を通してグラフィックによるファッションブランディングの意識を養う。	2・ 通 年	60	2			○	○			○	
○			帽 子	帽子の一般常識と帽子に対する知識を深め、服飾に於ける帽子の位置づけを理解させる。トータルイメージを表現する力を養い、作品制作を通して帽子のイメージや服とのバランス感覚などを把握。	2・ 後 期	30	1			○	○			○	
	○		フ ァ ッ シ ョ ン 英 会 話Ⅱ	ファッション英会話Ⅰに引き続き、ファッションを中心としたテーマで英語をツールとしてコミュニケーションをとれるように、英語の運用力をつけることを目標とする。語彙を増やしたり、文法の確認も組み込んでいく事を目標としている。	2・ 通 年	60	2			○	○		○		
	○		フ ラ ン ス 語 Ⅱ	フランス語を半期学んだ学生を対象としたクラス運営を目標とする。フランス語独特の音に慣れ、基本的な文法・動詞の活用ができるようにする。またフランス語で簡単に日常的にかかわす挨拶ができるように、また初歩のコミュニケーションをフランス語でできることを目指す。	2・ 通 年	60	2			○	○			○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル造 形 論Ⅱ A	3年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究し、平面作図からだけのデザインではなく立体からもとえられる様、自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。デザイン発想から作品製作まで個性を生かした表現、テクニックの育成をする。	3・前期	30	1	○			○		○		
○			アパレル造 形 演習 デ ザインⅡ A	1 カジュアルウェアⅠ デザイン/パターン/実物製作/レポート、プレゼン 2 バザー作品(カットソー)文化祭バザー作品(セットアップ)	3・前期	60	2		○		○		○		
○			アパレル造 形 演習 ド レーピング Ⅱ A	3 ウィンターデザインコート デザイン/パターン/実物製作/レポート、プレゼン 4 ニューフォーマル デザイン/OP・ドレープ/パターン/実物製作/レポート、プレゼン	3・前期	60	2		○		○		○		
○			アパレル造 形 演習 実 技Ⅱ A	5 修了製作 (後期) デザイン/パターン/実物製作/レポート、プレゼン 6 ドレーピング ストレート原型/3面構成JK/ラグランスリーブコート/自由研究	3・前期	90	3			○	○		○		
○			アパレル造 形 論Ⅱ B	※使用ボディ・・・工業ボディ	3・後期	30	1	○			○		○		
○			アパレル造 形 演習 デ ザインⅡ B		3・後期	60	2		○		○		○		
○			アパレル造 形 演習 ド レーピング Ⅱ B		3・後期	60	2		○		○		○		
○			アパレル造 形 演習 実 技Ⅱ B		3・後期	90	3			○	○		○		
	○		量産技術概 論・実習	アパレル生産の仕組みと工業機器の基礎知識、及び工業生産技術の習得を目標とする。前期は量産の手法に基づいたシャツの縫製実習を通して工業生産技術の習熟を目指すと共に、工業用ミシン、アイロンを主とした各種工業生産機器の基本的な使用方法も習得する。後期はアパレル産業の生産プロセスに従い、各種生産関連書類の活用法、作成方法を講義・演習により学ぶ。	3・通年	60	2	△		○	○		○		
	○		量産技術実 習Ⅱ	量産体制のグループでの実習を通し、アパレルにおける組織的な生産のプロセスと、分業による効率的な作業について理解を深めることを目標とする。メーカー側の製品企画・工場側の製造企画に始まり、重衣料の生産活動を通して「モノ」「情報」の流れを掴み、所定の品質を実現するための手法や、原価、納期までに完成させるための計画について考える。	3・通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		自由研究	作品制作にとどまらず、様々な角度から作品をトータルコーディネートし、作品全体をまとめる能力をやしなう。また、それらの発表表現テクニックを研究する。	3・通年	60	2			○	○		○		
	○		自由研究Ⅲ	3年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究し、平面作図からだけのデザインではなく立体からもとらえられる様、自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。デザイン発想から作品製作まで個性を生かした表現、テクニックの育成をする。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			ファッションデザイン画ⅢA	服のデザインに対するオリジナル性を高め、コンセプトを設定して自分の考え方を表現するアイデア、デザイン、素材、配色などを、複合的に画材で描写する力をスキルアップさせる。就職やコンテストなどに向けて、独自性を確立させる。	3・前期	30	1			○	○				○
	○		ファッションデザイン画ⅢB	服のデザインに対するオリジナル性を高め、コンセプトを設定して自分の考え方を表現するアイデア、デザイン、素材、配色などを、複合的に画材で描写する力をスキルアップさせる。就職やコンテストなどに向けて、独自性を確立させる。	3・後期	30	1			○	○		○		
	○		アパレル品質論	アパレル製品の企画、設計、生産、流通における品質管理の知識を習得させるために以下の①～③について講義、演習、実習、見学を通して理解させる。 ①素材の特性を把握する為の物性試験や製品の実用性能を管理するための各種試験方法、評価法、基準値 ②アパレル製品の取り扱い ③アパレル製品に関する法規制(表示関連、安全性関連)や規格	3・後期	30	1	○			○		○		
	○		テキスタイル産業論	アパレル製品の主な材料であるテキスタイルを、編織の技法や工夫、染色加工、特殊加工など生産の観点から理解させる。また、工場、産地、見本市などのテキスタイル産業とアパレルが実際にどのように関わり、製品が作られて行くかを学ぶ。	3・後期	30	1	○			○		○		
		○	服装解剖学Ⅲ	1・2年次で学習した人体の構造と運動を基礎とし、3次元計測による運動計測、人体の動きとパターンの関係について考察し、子供から高齢者までの体型とパターンに関しても研究させる。	3・前期	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレルマーチャンダイジング	アパレル業界におけるマーチャンダイジング業務の実務を講義と実習により指導し、アパレルマーチャンダイジングの基礎知識を習得させる「実学」を目指す。	3・通年	60	2	△		○	○			○	○
	○		CADパターンメイキングⅡ	アパレル産業において工業化された設計・生産・製造のプロセスを認識し、生産技術の1分野である設計に活用される「アパレルCAD」システムを利用して、工業生産設計の流れと設計の考え方・手法・方法の理解を深め、設計システムの構築と管理の仕組み迄の内容を行う。	3・後期	30	1			○	○			○	
	○		生産管理各論 生産企画	アパレル産業の生産プロセスの内、メーカーにおける生産関連業務の専門知識を習得することを目的とする。授業内容はアパレル生産担当者の業務範囲を業界関連図から読み解き、それぞれの分野で発生する各種管理活動について品質(Q)・原価(C)・納期(D)それぞれの観点から体系的に学習する。海外生産の拡大から多様化する生産の現状を理解し、今後のアパレル生産の行方を考慮の上、各自でアパレル製品の生産企画を立案し発表する。	3・通年	60	2	○			○			○	
	○		グレーディング	グレーディングの基礎・知識・実務レベル・オペレーション操作方法の理解・習得	3・後期	30	1			○	○			○	
	○		ニットアパレル造形Ⅱ	ニットの基礎知識の習得し、アパレルにおけるニット製品の製作工程や技術を学ぶ。ニットに使用される素材・編み地について商品知識と共に学ぶ。ニットアパレル造形(Ⅰ)を基礎とし、(Ⅱ)では家庭用手編み機を主に基礎編み作成、工業機による手横機基礎編み作成を行う。	3・後期	30	1			○	○			○	
	○		ニットアパレル造形(カット&ソー)Ⅰ	美しいシルエットを作る立体裁断とパターンの理解丸編みで立体裁断の基礎知識とカットソーの縫製知識を理解させる	3・前期	30	1			○	○			○	
	○		コンピュータグラフィックⅢ	ファッションデザインの表現ツールとして、パーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身につけると同時に、各自のデザイン能力の向上とプレゼン力の向上を目指す。レベル設定:応用操作。 ・CGを使用したデザイン画のCG活用術 ・ドロー系ソフト/Illustratorの応用操作と ・ペイント系ソフト/Photoshopでの応用操作	3・通年	60	2			○	○			○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		ア ク セ サ リーa	アクセサリーは服を引き立たせるための小道具である。アンティークや新しい素材を幅広く取りこみ、オリジナリティの高い作品、アートアクセサリーの制作、そして服作りのヒントにと意識している。	3・後期	30	1			○	○			○	
	○		造形演習	発想―表現―コミュニケーション 3つを連動させながらクリエイションの力をつける。特に自分自身を見つめ、コンセプトをしっかりと組み立てる力を養う。制作の姿勢が社会や世界に向いていること。発想力、(特にグラフィックにおける)表現力、伝える力(プレゼンテーションスキル)の強化を目指します。	3・前期	30	1			○	○			○	
	○		服飾デザイン論Ⅰ	服飾デザインの基礎知識である色彩、形態、構成などの講義、および演習を通して美的選択眼と構成力を習得し、ファッションデザインに活用すること。	3・後期	30	1	○		△	○			○	
	○		アパレル素材論A	アパレル製品の主な材料であるテキスタイルとそれを構成する糸、繊維、またそれらに対する染色、仕上げ加工などに関する基礎知識について学ぶ。さらにキスタイル産業とアパレル企業の関連性などを理解できるよう指導する。	3・前期	30	1	○			○			○	
		○	アパレル素材論B		3・後期	60	2	○			○			○	
	○		服装解剖学Ⅰ	人体の解剖学的な構造を衣服パターンと関連づけながら理解させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体に関する基礎知識を学修させる。	3・後期	30	1	○			○			○	
	○		C A D パ ターンメイ キングⅠ	アパレル産業における設計プロセスを認識し、アパレルCADを利用した実務の考え方・方法を深めることを目標とする。入力作業に始まり、パターン展開、プランニング、マーキングと流れを確認する。基礎的部分の履修ではあるが、最小限の機能を活用し、最大の効果が得られるレベル設定とする。	3・通年	60	2			○	○			○	
	○		グラフィックワークⅠ	ファッションデザインの表現ツールとして、パーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身につけると同時に、各自のデザイン能力の向上を目指す。 ・CGを使用したデザイン画の基本制作とCG活用術 ・ドロー系ソフト/Illustratorの基本操作と ・ペイント系ソフト/Photoshopでの基本操作	3・通年	60	2			○	○			○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ニットアパレル造形Ⅰ	ニットと布帛の違いを理解し、ニットの基本知識基本技術を習得する。	3・後期	30	1			○	○		○		
○			アパレル染色演習Ⅱ	1、2年次で学んだ素材や染色についての知識や技術をもとに、浸染・捺染の応用的な技法を習得する。それにより発展的なテクスチャー表現を身に付け、アパレル作品の企画、制作力の強化に結びつける。	3・前期	30	1		○		○		○		
	○		ファッション英会話Ⅲ	英語をツールにしてコミュニケーションをとれるように、イントネーションの大切さに留意させるとともに、相づちのうちかたなどもふくめた英語の運用力をつけることを目標とする。文法中心ではなく、体験的なクラス運営を試みているので英語の知識の差に関係なく誰でも授業に参加して学習することができる。	3・通年	60	2			○	○			○	
	○		フランス語Ⅲ	毎回フランス語の発音・表現に親しみながら、基本文法の理解に基づく平易な文章読解および日常会話に必要なスキルの向上を目指す。講義では視聴覚教材も活用させながら、現代のフランスにおける生活文化(ファッション・香り等含む)も題材として取り上げる。文化の多様性に意識を向け、母国語とは異なる言語の仕組みや発音の特徴を興味を持って意識できる機会を多く設ける。目標レベルは、実用フランス語技能検定試験5～4級。	3・通年	60	2			○	○			○	
	○		中国語Ⅱ	初級構文に基づいて、日常・旅行会話練習を中心の講座とします。基本的な中国語服飾関連専門用語を習得します。	3・通年	60	2			○	○			○	
	○		日本語Ⅰ	留学生が本科の授業内容を理解するために必要とされるレベルの日本語能力習得を目標とする。日本語中級レベルの会話テキストを使用し、様々な場面で適切な日本語を使えるように、特に「話す」「聞く」の技能を向上させることを目指す。また、「読み書き」の能力向上の助けになるよう補助教材も使用する。発音やイントネーションの矯正を目的として毎回シャドーイングも行う。尚、適宜ファッション語彙も扱う。	3・通年	60	2			○	○			○	
		○	コラボレーションc	3年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究し、外部講師、企業とのコラボレーション活動により自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。あわせて、ビジネス戦略にあわせた作品制作。個性を生かした表現方法を身につける。	3・通年	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企業 等との 連携
必修	選択 必修	自由 選択						講 義	演 習	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル造 形 論Ⅲ A	4年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究するとともに広い意味で自己の可能性を発見し、創造性の領域を広げる。デザイン発想から作品制作のプロセスの中で個々の目的に応じて個性を生かした表現・テクニックの育成をする。 1、 プライベートコレクションPartⅠ・Ⅱ ・8～10体製作・・・デザイン・パターン・実物制作・発表(ショーまたは展示) 2、 ドレーピング ・パンツ キブリス9ARレギュラーパンツボディ ・ジャケット 文化ヌードボディ(キモノスリーブ) ・コート 文化ヌードボディ ・ニューフォーマル 文化ヌードボディ 3、 コンテスト作品	4・ 前期	30	1	○		○		○		
○			アパレル造 形 演習 デ ザインⅢ A		4・ 前期	60	2		○	○		○		
○			アパレル造 形 演習 ド レーピング Ⅲ A		4・ 前期	30	1		○	○		○		
○			アパレル造 形 演習 実 技Ⅲ A		4・ 前期	60	2			○	○		○	
○			アパレル造 形 論Ⅲ B		4・ 後期	30	1	○		○		○		
○			アパレル造 形 演習 デ ザインⅢ B		4・ 後期	60	2		○	○		○		
○			アパレル造 形 演習 ド レーピング Ⅲ B		4・ 後期	30	1		○	○		○		
○			アパレル造 形 演習 実 技Ⅲ B		4・ 後期	60	2			○	○		○	
	○		量産技術実 習		4・ 通年	60	2			○	○		○	
○			ニットアパ レル造形 (カット& ソー)Ⅱ		4・ 前期	30	1			○	○			○
	○		アパレル染 色演習Ⅲ	アパレルデザインを行う上 重要である素材の染色加工に関する専門知識を養う。理論・技法・工程など実技を通し習得する。時代に沿った 各種表現方法を分析し構成する。	4・ 通年	60	2		○	○		○		
	○		テキスタイル 企画演習	デジタルプリント機器を利用した布地制作を通してテキスタイルの知識・理解を深める。アパレルに利用されるテキスタイルを企画するという視点から、主にプリントの企画をたて、プレゼンテーションする技術・能力を身につける。	4・ 通年	60	2		○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		コンピュータワーク (生産管理)	応用的なアパレルCADの使用法と、アパレルCADを中心とした様々なソフトウェアを関連づけて活用できることを目標とする。同じ資料を様々な方法で作成することにより、ソフトウェアのメリット、デメリットを認識する。3次元仮想ボディデータ作成や、仮装着シミュレーションなど最先端のCADオペレーションを体験する。	4・前期	30	1			○	○		○		
	○		生産管理各論 製品企画	商品作成の方法とルールを実践的に学習することで製品企画実務の理解をするとともに実務レベルでの簡単な実践を行う。専門的内容を理解しやすく簡略化したうえで、一般論として学生が受け入れられ理解できる講義内容の設定とする。	4・前期	30	1	○			○			○	
	○		ニットデザインシステム 演習	工業横編ニットの生産システムの理解、およびコンピュータ制御横編機、デザインシステムの使用方法を習得し、ニット作品の製作を通じて、アパレル業界におけるニット製品のデザイン手法や布帛とのバリエーションの組み方を考えられる人材を育てる。	4・通年	60	2		○		○		○		
	○		コンピュータグラフィックⅣ	3年時までに習得したイラストレーターによる表現技術を用いて、市場性を踏まえた現実的な企画立案とビジュアル・プレゼンテーションを前提とした企画書作成を学ぶ。就職活動のためのプレゼンテーション資料として使える様な、プロフェッショナルとしての企画書を制作する。イラストレーターデータ(ai)からPDFに変換した企画書を制作者が全員にプレゼンテーションする。	4・通年	60	2			○	○			○	
	○		グラフィックワーク	アドビ・イラストレーターを使っの精密なハンガーイラストの作成及びデザインデータの展開、先染柄やプリント柄の図案作成等を習得。また、デザイン画をC.Gで美しくわかり易く描く事を学び、写真やイラスト文書と合わせた、ビジュアル・プレゼンテーション(企画書)の製作を習得する。バッグやベルト等の小物アイテムを描く事も学び、レベルの高い企画の作成を目指す。	4・通年	60	2			○	○			○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		アクセサリーb	服飾におけるアクセサリーの基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	4・後期	30	1			○	○			○	
	○		バッグ I	○卒業制作ファッションショー、卒業制作展のためのアイテムとして生かせるバッグ作りを目指す。 ○バッグの制作を通して、素材としての様々な革の種類や特性を学び、企業活動における商品企画、材料手配、制作実行などに携わる際の適応性や応用力を高める。	4・後期	30	1			○	○			○	
	○		カメラワークA	写真撮影の基礎を学び、自作のファッション作品を写真を通して表現する。	4・前期	30	1			○	○			○	
	○		カメラワークB		4・後期	30	1			○	○			○	
	○		色彩計画	3年次『服飾デザイン論Ⅰ』で習得した色彩の基礎を発展的に学習する。 配色やイメージ表現などの基本的な色彩スキルをトレーニングしたのち、コンセプト策定からプレゼンテーションまでの色彩の考え方を演習を通して学習する。	4・前期	30	1		○		○		○		
	○		アパレル染色演習	アパレル商品に使用する素材の染色・加工を学ぶ。 この知識を得ることにより、生地準備工程から商品完成までを読み取り、各自の企画に反映する力を養うことを目標とする。	4・通年	60	2		○		○		○		
	○		アパレル品質論	アパレル製品の企画、設計、生産、流通における品質管理の知識を習得させるために以下の①～③について講義、演習、実習、見学を通して理解させる。 ①素材の特性を把握する為の物性試験や製品の實用性能を管理するための各種試験方法、評価法、基準値 ②アパレル製品の取り扱い ③アパレル製品に関する法規制(表示関連、安全性関連)や規格	4・後期	30	1	○			○		○		
	○		服装解剖学Ⅱ	3年次で学んだ服装解剖学の基礎を発展させ、筋の構造を解剖学的に理解させる。さらに動態計測(石膏計測)実習により、衣服製作に必要な皮膚の運動量・変化を把握させ、計測結果を基に機能性大の衣服設計(デザイン)を行う。	4・前期	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		C A D パターンメイキングⅡ	アパレル産業における設計プロセスを認識し、アパレルCADを利用した実務の考え方・方法を深めることを目標とする。基礎編を履修後、自力で対応できる応用レベルとする。	4・通年	60	2			○	○			○		
	○		グラフィックワークⅡ	ファッション産業におけるグラフィックの役割と有効性を理解し、デザイン表現の手段としてPC及び、グラフィックソフトを扱う能力を身につけると同時に、各自のデザイン表現能力とプレゼンテーション能力習得と向上を目指すCGを使用した販促物・エディトリアルデザインなど制作を行うCG活用術・ドローソフト/Illustratorとフォトレタッチソフト/Photoshopの応用操作	4・通年	60	2			○	○			○		
	○		ファッションマーケティング	1. ファッション・マーチャンダイジング実務について指導を行い、シーズンMDの計画背景に基づいたプランニング実習を行い、企業で企画プランナー&デザイナーを目指す学生の為の教育を行う。 2. ポップアップショップ企画のプランニング過程を実践。現実に即したブランドの意思決定と立案計画、そして具体的な商品企画を行い、プレゼンテーションを実施。個々の能力向上を目指す。	4・前期	30	1	○		△	○				○	
	○		ニットアパレル造形（カット&ソー）Ⅰ	・ 総合的なカットソーの知識を学び、カットソー製作に必要な知識・技術を得る ・ カットソーの縫製知識・技術を習得し、マイクロレクションを製作する	4・後期	30	1			○	○				○	
	○		テキスタイル産業論	3年次で学んだ素材の基礎知識をもとに、テキスタイル（繊維・糸・織編・染色加工）について生産の観点から理解させ、服地における的確なテキスタイルの選定や取り扱いが出来る力を習得することを目標とする。	4・後期	30	1	○			○			○		
		○	コラボレーションd	4年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究し、外部講師・企業とのコラボレーション活動により自己の可能性を発見する。また、創造性の領域を広げ個性を生かした表現方法を身につける。	4・通年	30	1			○	○			○		
	○		ファッション英会話Ⅳ	ファッション英会話Ⅰ,ⅡおよびⅢを履修した学生を対象としたコース。プレゼンテーション、ペアワーク、グループワークを通して会話の疑似体験をできるだけできるように工夫している。英語でのコミュニケーションを少しでも多く体感できることを目指す。	4・通年	60	2			○	○			○		
	○		日本語Ⅱ	日本語Ⅰを履修した学生を対象とした「話す」「聞く」に重点を置いたコース。ファッションをテーマに、実際に必要となると想定した会話を場面別・機能別に模擬練習し、グループワークによるプレゼンテーション等を通して定着させていく。	4・前期	30	1			○	○				○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			特別講義Ⅳ	4年生の学生として既に習得してきたことをさらに追求しより深く研究するため、各専門分野の方々との出会いを多くし物事に対する洞察力を養う。レギュラー授業には含まれない関連分野の専門知識を習得する。	4・通年	30	1	○			○		○		
	○		インターンシップⅡa	将来のキャリアを視野に入れ、各自の専門性追及と業界・業態・職業自体への理解を深めることを目的とする。審査を受けて希望するデザイナーブランド企業・デザイン事務所・アパレルメーカー・テキスタイル企業・出版等関連企業も対象として実務体験をする。	4・通年	60	2			○		○	○		
	○		インターンシップⅡb		4・通年	60	2			○		○	○		
○			卒業研究・創作	4年次の学生として既に習得してきたテクニックを更に追及する。そして自己の更なる可能性を発見し、クリエイティブなデザイン発想・オリジナリティを生かした表現でファッションクリエイションを考えてマイコレクションに展開し制作する。集大成とし卒業制作ショー・展示にて各自表現する。	4・通年	240	8			○	○		○		
学年合計					37科目		960単位時間(32単位)								
総合計					131科目		4,380単位時間(146単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること		1 学年の学期区分	前期・後期
		1 学期の授業期間	15週
(留意事項)			
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。			
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			